

令和6年度 保健福祉常任委員会視察報告について

委員長 深川 博英
副委員長 内山 伸博
委員 黒岩 重彦
委員 佐藤 源
委員 小坪 輝美
委員 新原 善信

視察日：令和6年10月30日（水）

視察先：岡山県総社

視察内容：子育て王国まちづくり事業について

総社市は、心の教育を重視し子ども本意で7つの部会で福祉王国プログラムによる施策を実施されてありました。

支援が必要な子ども・家庭を地域全体で支える対策として児童虐待防止では「総社市子どもを虐待から守る条例」を軸とした地域ネットワークや子ども虐待 SOS サポーターの養成等行っている。

発達障がい児支援では「そうじゃ式早期一貫サポートシステム」によりしっかりとした支援をしている。

つどいの広場では父親が参加しやすいように夜間開催してパパ講座を設けたり、双子ちゃんタイムによる対応や商業施設や大学で開催して外国人の利用を図ったり、大学との連携や学生との交流など積極的な取り組みがされていました。

18歳までの経済的支援ではひとり親支援として年2回支給の「児童年金」や義務教育の入学卒業時に支払われる「遺児激励金」などが市独自で取りこんでいた。

子ども食堂は市内企業の協力を得て10箇所設置しており、乳幼児への対応については赤ちゃん訪問時に「おむつ等クーポン券（28,000円）」やごみ袋、トートバックなどを支給しており、乳幼児健診時には絵本を1冊配布など積極的に市民にアプローチしていた。

待機児童対策として保育基準面積の112%まで受け入れして貰っているが待機児童は10名発生しており、認可外保育所の協力により補助金を支払って園児を受け入れをしてもらう取り組みも行われていました。また、稼働率が低い公立幼稚園の空き教室を利用して3歳以上の園児の預かり保育を実施されており、そこでは昨年度から給食センターからの配送による給食も実施されていました。

保育士不足の取り組みでは学校への養成訪問や保育士支援金（7万円）はもとより、県合同説明会への参加や保育士等登録制度や ICT 化事業の活用など様々な取り組みがなされました。

「こども課」の中の「子育て支援係」と「母子保健係」

「こども課」と「つどいの広場」

連携を取ることを総社市では良く考えながら事業をされていて、
総社市こども家庭センターでも統括支援を中心に情報共有・連携が進められていることが
説明を受けました。

令和6年度 保健福祉常任委員会視察報告について

委員長	深川	博英
副委員長	内山	伸博
委員	黒岩	重彦
委員	佐藤	源
委員	小坪	輝美
委員	新原	善信

視察日：令和6年10月31日（木）

視察先：大阪府大東市

視察内容：子育て支援について

大阪府大東市は、他の自治体に先立ちこども家庭センター（ネウボランドだいとう）を子育て担当部局と保健医療担当部局と教育部局の3部局がしっかりと連携して、妊娠・出産・子育てに関する相談等の総合窓口を開設されてありました。特徴的なものとして妊娠中に保健師が妊婦と面談し一緒にサポートプランを作成していること、教育委員会配置のSSWが交代でネウボランドに常駐し相談に対応し妊娠が分かった時から、子どもが18歳になるまでの子育てに関する情報提供窓口を一本化することで、子育て家庭を適切な機関につなぎ、必要なアドバイスを行うなど、スムーズで切れ目のない相談支援を行っていました。こども家庭センターでは旧市民病院の建物内に設けられたネウボランドだいとうは来所の敷居を低くするために市役所っぽさをなくし明るく開放的な空間に楽しいイラストが描かれていて相談に来やすい雰囲気が工夫されていた。相談する個室それぞれにも子どもと一緒に過ごせるおもちゃなどが置いてあり気楽に相談できそうであった。

広報紙やアプリを活用して情報発信したり、オンライン相談や子育てコーディネーターによる出張相談などの取り組みがなされていました。センターに相談が無くても来所してもらう為に、いつでも計測を実施することで来所数も増え、ついでに相談ごとや悩みごとを聴くことで、結果的に相談件数も年々増加していました。

その他にも言葉の通じない方々への対応や双子の会などの多胎児固有の相談対応も実施されおり、様々な取り組みが進められていました。

ネウボラサポーター制度ではPRのための親子を広報で募集し、ベント等でお手伝いをしてもらっています。サポーターになり、一緒にイベント等を行っていく事で、お友達ができたり、市のことをより一層知ることができるようにしていた。

待機児童対策として実施されてある「送迎保育ステーション事業」は、市の委託事業で年間約7百万円の予算で5～10人の利用者の送迎をなされており、中短期的な保育ニーズへの対応策として一定の役割を果たしていました。

給付事業として3歳の誕生日前日まで利用可能な「子育てスマイルサポート券」①子育てニコニコ券（消耗品購入・タクシー乗車利用）②子育てワクワク券（一時保育等の子ども預かり・水泳教室等の親子参加型サービス）③子育てあんしん券（こども夜間救急センターへの片道タクシー券）を実施されていて、子育て世代の若い人達にとって大変魅力的で有効な事業が実施されていました。